



秋田大学教育文化学部附属小学校 校報

はとの子だより

No.6 令和5年8月29日(火)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

実りある秋に向けて ～2学期スタート～

暑い暑い夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。

1学期の終業式では、3人の子どもたちが、1学期を振り返るとともに夏休みの展望を発表しました。



2年生の宮澤駈さんは、漢字の筆順やマット運動などの体育学習の課題について振り返るとともに、夏休みは遠くのおじいさんとおばあさんに会いに行くことを楽しみにしていました。

4年生の三戸颯真さんは、自分にできることは運動会実行委員として仲間を応援することだと心に決めて頑張った成果を振り返りました。夏休みは、規則正しく生活し、お家のお手伝いを頑張ることを夏休みのめあてにしていました。

6年生の川口雅桜さんは、運動会や修学旅行、合唱部での練習などを通して、学校の仲間をはじめとした様々な人々との絆が深めたことを、大きな成果と捉えていました。夏休みは、人と人との関係を深めながら、積み重ねを大切にすることを目標にしていました。

誰もが前のめりになりながら、3人の発表を聞いていた1学期の終業式から1か月が過ぎました。夏休みのめあては達成できたでしょうか。

感染症対策による規制が解除された影響か、様々な経験を積んできたらしく、子どもたちの表情はいくらか精悍さを増したように感じました。とても背が伸びた子や、真っ黒に日焼けした子などが目立ちました。

始業式では、1年生の面川瑞樹さんが、動物園のナイトキャンプに参加し、大好きなライオンの前で夜を明かすという得がたい経験を紹介してくれました。二学期は、縄跳びの連続技に挑戦するのだと、やる気を全開にしていました。



3年生の伊藤興一郎さんが、竿燈祭りの妙技会に出場し、安定した姿勢や仲間との声かけを意識して頑張った思い出を話してくれました。二学期は、目標に向けてすぐ行動することと、先のことを考えて行動することを大切にしたいと抱負を話してくれました。

5年生の辰呉亜一郎さんは、剣道をはじめとしたたくさんの習い事を、チャレンジの気持ちを大切にして頑張ったそうです。二学期は、習い事をはじめとして、国語の文章題への苦手意識を克服し、放送委員会での仕事にも頑張りたいと話していました。

今年の夏休みは、たくさんの子どもたちが、普段はできない得がたい経験をしてきたようでした。この経験を、二学期の学校生活のどこで、どのように生かしていけるだろうか、という気持ちが、夏の入道雲のようにむくむくと湧き上がってきました。



佐藤修司校長先生は、二学期の始まりに当たって次のようなお話をしてくださいました。

皆さん、おはようございます！ 皆さんは、楽しい夏休みを過ごせましたか？久しぶりに皆さんの元気な、日焼けした顔を見ると、きっと、たくさんの大切な思い出を作ることができたのだらうと思います。ただ、記録的な暑さがまだ続いていきますし、記録的な大雨による災害もありました。大雨災害では、テレビや新聞などで報道されていたように、多くの方がボランティアとして秋田市内だけでなく、秋田市の外からも、また秋田県の外からも手伝いに来てくれていました。野球部やラグビー部などの若い高校生や大学生ばかりでなく、年配の人もたくさんいて、県外から来た人は、自分の車に寝泊まりしながら、片付けなどを手伝ってくれていました。日本全国、災害が起こったところに駆けつけているんだそうです。災害にあったとき、困ったとき、遠慮せずに助けを求めるといふこと、これも大変大事なことです。同時に、自分の経験を踏まえて、助けられる人から助けることのできる人になること、これも大事なことです。

あと、うれしいお知らせもありました。合唱部がNHK全国学校音楽コンクール秋田県大会で金賞を取って、東北大会出場となりました。また全日本合唱コンクール秋田県大会では金賞と同時に、全国大会への出場が決まりました。おめでとうということと同時に、この喜びを学校全体で分かち合って、応援していきましょう。

さて、1学期の終業式の時、私からは「ありがとう」という言葉を大事にしてくださいという話をしましたが、覚えていますか。夏休みの間、皆さんは家族の人にありがとうと言ってもらえるようなこと、お手伝いのできたでしょうか。逆に、家族の人にありがとうという言葉や気持ちを伝えることができたでしょうか。今日からは2学期です。ぜひ、「ありがとう」の言葉と気持ちを、お友達にも伝えてください。



この2学期、皆さんにお願いしたいことは、言葉を大事にしてほしいということです。言うという漢字は、口の上に四つの点や線が乗っていますが、これは何を表しているか分かりますか。漢和辞典でみたところ、「心」を意味しているそうです。そう言われてみると、「心」もまた四つの点や線でできています。つまり、言うということは心が口から出てきているわけです。口から出てくる言葉には、心が宿っています。また、「ことだま」という言葉もあって、言葉には魂が宿っているとも言います。

その言葉は、人に勇気や元気を与えてくれることもあれば、逆に、人を傷つけることもあります。きつい言葉、汚い言葉、暗い言葉ではなく、できるだけ、優しい言葉、丁寧な言葉、明るい言葉を使うようにしてください。おはようや、こんにちは、さようなら、などのあいさつもそうですし、いただきます、ごちそうさま、ありがとう、おめでとう、すごいね、よかったね、おいしいね、楽しいね、うれしいね、大丈夫だよ、などなど、心を込めて、相手を思いやるような言葉を使っていると、言われた人を明るくします。さらに、言葉はブーメランのように自分に返ってきて、自分を明るくしてくれますし、自分の生活や人生までも明るいものにしてくれるはずです。

さあ、今日から2学期の始まりです。たくさんの楽しい思い出を学校で作れるようにみんなでいろんなことに取り組みましょう。

夏休み作品集 ～夏の思い出をとじこめてあります～

今年も夏休みの思い出がたくさん詰まった作品の数々が、学年のオープンスペースにところ狭しと並び始めました。



広く世界に飛び出して活動した成果をまとめた作品が目にとまりました。

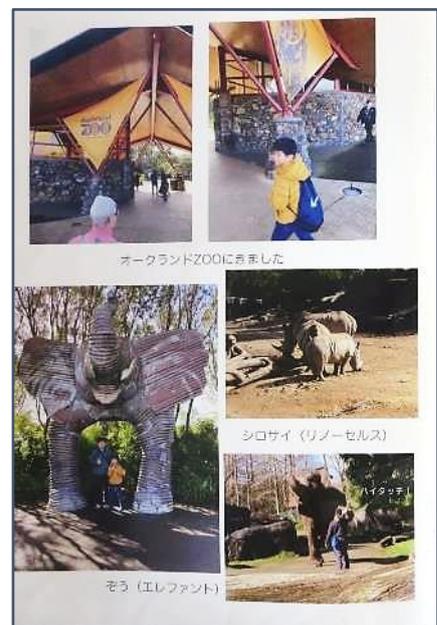
例えば左の作品は、フィリピンに旅行に行った際に、現地でお会いした方々に「秋田県を知っているか」というインタビューをした記録です。秋田県はそれほど知名度が高くなかったのですが、秋田犬の知名度がかなりの高さだったことに感心しました。

他にもベトナムやニュージーランドを訪れ、現地の文化や自然に親しんだ記録がありました。こうした体験的なレポートをまとめることができるようになったのも、コロナ禍による様々な規制が解除されたことによるもの

のです。

日本中のコンクリートに興味をもったり、福祉に関する内容を、分身ロボットカフェを通して考えたりするなど、ユニークな視点と切り口でレポートをまとめた作品も印象に残りました。

また、夏休み中は終戦記念日を迎えることから、戦争に関連した話題が必ず取り上げられるのですが、今回は、実



際の戦争遺跡を訪れたフィールドワークも多く見られました。広島や長崎まで旅行して見聞したことをまとめたり、日本最後の空爆を受けた本県の土崎地区の戦争遺跡などについて調べたりした作品は、どれも力作揃いでした。



他にも、7月の豪雨被害に関する新聞記事をまとめた作品や、県内外の美術館を巡って作品を鑑賞したり学芸員さんにインタビューした記録をまとめた作品、オケラの生態について調べ、土に潜るまでの時間を調べるなど詳細なデータを取った作品など、本校ならではのユニークな視点が光るものが目白押しでした。

是非ご来校のうえ、子どもたちの力作を楽しんでいただきたいと思います。ご家庭の皆様におかれましては、子どもたちにかげがえのない機会と、惜しみないご助力を与えてくださったことに感謝申し上げます。

祝！金賞 ～東北大会・全国大会出場決定～

校長先生の始業の挨拶にもあったとおり、本校合唱部が、夏季休業期間も大きな舞台で活躍しました。

8月9日（水）に開催されたNHK全国学校音楽コンクール秋田県大会では、金賞を受賞し、9月17日（日）に宮城県で開催される東北大会への出場校に推薦されました。

8月27日（日）に開催された全日本合唱コンクール秋田県大会でも、金賞と最優秀賞を受賞し、11月12日（日）に福岡県で開催される小学校部門の全国大会への出場校に推薦されました。

酷暑の中、しっかりと体調管理をしながら、一つ一つの課題をクリアして実力を高めていった成果が、好成績につながりました。おめでとうございます。より大きな舞台での活躍を期待しています。